

さいたまけんぜいむれんらくきょうぎかいがいちようしよう
埼玉県税務連絡協議会会長賞

たす あ わ
「助け合い」の輪

はなにゅうしりつひがしちゅうがうがうてい
羽生市立東中学校

さんねん めぐみ
三年 恵
らん
蘭

しよほうせん くすりてちよう てわた
処方箋とお薬手帳を手渡され、同時に薬を受け取る。束の間、「お大事にどうぞ」と声をかけられ、別の患者が呼び出される。

さくねん はる はじ ひとり びやういん じゆしん
昨年の春、初めて一人で病院を受診したときのことだ。私はこの一連の手順に戸惑いを覚えた。
いちえん きんせん しはら
一円たりとも金銭を支払っていないからだ。もちろん、子どもの医療費助成について初耳だったわけではないが、いざ受付に立つと、本当にこれで良いのだろうかという不安に駆り立てられた。その上、これまでは両親に頼ってばかりで、医療費助成の制度やその仕組みについて、恥ずかしながらよく理解していないことを思い知らされた。

しら わたし し こと いりようひしきゆうせいで
調べてみると、私の市では、「子ども医療費支給制度」によって、十八歳の三月三十一日まで、医療費が無償になることが分かった。市内に在住し、医療保険に加入していれば、所得に関係なく受給資格を得られるそうだ。しかし、薬というものは、決して安価ではない。また、医療職は非常に重労働だということも耳にする。市内の何千人という子どもがこの制度を利用すれば、きっと相当な額になるに違いない。では、このお金は一体どこからやって来るのだろうか。

ししよたい ぜいきん しょうがっこう しゃかつか じゆぎやう ぜいきん しゆるい じじう たよう まな
その正体こそが、税金だ。小学校の社会科の授業で、税金の種類は実に多様であることを学ん

だ。種類しゆるいによって、納める場所ばしょや対象たいしょうとなる人ひとなどが千差万別せんさばんべつだ。そうして集められた巨額きやがくの一部いちぶが、私わたしたちの医療費いりようひに充てられる。つまり、私わたしたちの医療費いりようひは、数え切れないほどの納税者のうぜいしやに支えられていたのだ。それは、私わたしたちの健康けんこうを増進ぞうしんし、親世代おやせだいの負担ふたんを軽減けいげんしたいという思いがあるからに違いない。このように考えると、気軽に病院を受診できることの偉大いだいさが分かった。「まだ中学生ちゅうせうがくせいだから、お金は払わなくても大丈夫だいじょうぶ」だという薄い認識うす にんしきしか持っていなかった自分を情けなく思い、周囲しゅういに感謝かんしゃすべきだと感じた。

さらに、私わたしの市しでは、高齢者こうれいしやにも、医療費軽減いりようひけいげんの制度せいどが設けられているそうだ。また、道路どうろの整備せいび、ごみ収集しきゅうじゅう、学校教育がくこうきょういくなど、税金ぜいきんが利用りようされている例れいを挙げたらきりがない。これらの共通点きょうつうてんは、「助け合い」の精神せいしんだと思う。もしも、道路どうろがでこぼこでごみが散在さんざうしていたら、住みにくく感じてしまう。また、学校教育がくこうきょういくを受ける機会きかいが無くなれば、正しい知識ちしきや社会しゃかいでの決まりきまりを身につけることができない。だからこそ、身近な人みぢかひとがより良い生活せいかつを送るために「助け合い」をする必要ひつようがあり、その気持ちきもちが最も普遍的ふへんてきに形かたちとして現れているものが、税金ぜいきんなのだと思う。

中学生ちゅうせうがくせいの私わたしに、納税のうぜいの義務ぎむはない。いわば、現在の私げんざいのわたしは、「助けられる側がわ」なのかもしれない。けれども、数年後すうねんごには社会しゃかいに出て、「助ける側がわ」の人間にんげんとなるだろう。このように、世代せだいを超えて「助け合い」の輪わが広がれば、日常にちじょうのトラブルは一つでも多く解決かいけつされるはずだ。病院びょういんでの出来事できごとから学んだ「助け合い」の大切たいせつさを胸むねに刻んで生活せいかつしていきたい。